

会 議 録

(1)会議概要

会 議 名	平成 28 年度 第 3 回泉大津市参画と協働のまちづくり推進会議		
開 催 日 時	平成 29 年 2 月 23 日 (木) 19 時～21 時		
開 催 場 所	泉大津市役所 3 階 301 会議室		
出 席 者	委 員	久委員、高寺委員、森田委員、湯川委員、忠岡委員、岡根委員、小橋委員、川上委員	
	そ の 他		
	事 務 局	<人権市民協働課>谷口課長、檜課長補佐、川真田係員	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0 人
会 議 次 第	1 開会 2 平成 28 年度事業報告について 3 平成 29 年度の取り組みについて 4 その他 5 閉会		

(2) 議事内容

○以下、事務局による進行

1. 開会（記録省略）

○以下、会長による進行

2. 案件

①事務局より「平成28年度事業報告について」を説明（記録省略）

その後、委員による質疑応答

委員からの主な意見・指摘事項等

■ まちづくり協議会のメリットについて

まちづくり協議会の設立のメリットは、協議会という形式で会合を行うことにある。集約しメンバーが一堂に会することで情報交換が簡便になり、各会の会合開催数を減らすことができることから、役員等の負担を軽減することが狙いとなる。一部の役員だけが動いている現状では、いかなる団体も活動の継続は困難になる。役員以外の人をいかに巻き込んでいくか、いかに効率よく活動を実施するかを検討する必要があるのではないかと。

当然ながら校区によって事情は異なるため、画一的な対応ではなく、柔軟に意見を広く取り入れて運用する必要がある。

■ 市民活動団体の担い手の創出について

担い手をいくら探しても出てこない、と言う声はたくさん聞かれる。しかしながら、例えば資料内に記載のがんばる市民公益活動応援補助金の申請団体には、小さい子どもを持つ母親世代の方が集まった団体もある。これまでの地域活動とは異なる活動が実施できる可能性もあるため、こういった方を地域活動に引き込む、または協力してもらえるようにすることができるのではないかと。

またセーフコミュニティ活動の取り組みも同様に、皆が楽しんで参加できるような仕掛けづくりをすることで、青年層・壮年層の人たちを巻き込んでいけるのではないかと。これまで若い人たちはお手伝い、というスタンスで接してきたことによって敬遠されていたこともあるように思う。お花見などで使うブルーシートを用いて防災訓練をしよう、など面白いアイデアや行動力を持っているので、団体の運営においては任せてしまうことも必要。

■ **公共施設適正化配置について**

今後市もすべての施設を管理しきれぬものではなく、統合を行うなどして適正に配置することになるかと思う。目的ごとに施設を配置するのではなく、コミュニティセンターなど、様々な要素に用いることのできる施設を設置するというのが一つの目的であるが、統合し、廃止する建物を売却した利益で別の施設を運用することもできることを狙ったもの。しかしながら、市民にとっては施設が減少することから、市が一方的に統廃合を行うわけではなく、市民と協働して検討していかなければならないことをご意見申し上げる。

②事務局より「平成29年度の取り組みについて」を説明（記録省略）

その後、委員による質疑応答

委員からの主な意見・指摘事項等

■ **市民活動団体情報掲載基準（案）について**

そもそも市民活動支援センターはより積極的に市民活動団体の情報を発信するために設置されたものであるため、市広報紙とセンターニュースを同じようにカウントするのではなく、できるだけ制限をかけないよう別枠で考えるべきである。

■ **審議会等委員の選任に関する指針（案）について**

他市では公募市民の登録制度を設けているところもある。一般的に公募市民を募集する場合、その分野に興味のある人だけが集まってしまう、より広い意見を募集することができないことがある。それをカバーするため、募集する際は登録されている公募市民に声をかけることを実施している。なかなか自ら手を挙げて応募することに抵抗を感じる人もいるため、そういった手法を取り入れても良いのでは。

■ **人材育成（市職員の意識の醸成）について**

行政の中でも、協働担当者だけでなく、全庁的に協働の意識が必要なように思う。研修が新人研修だけというのは不十分ではないか。

■ **井戸端会議（市民活動支援センター事業）の拡充について**

まちづくりのことをもっと考え、情報交換ができる場として、井戸端会議をさらに発展させるべきと考える。市職員も肩書きを脱ぎ、一個人として様々な意見を収集することが

できることから、有益であると思う。もちろん市民側の接し方のマナーは必要で、肩書を脱いだ職員に対し、要望を集中させるのではなく、建設的な意見交換をするという意識が必要に思う。

③委員より「その他（FMいずみおおつの開設について）」を説明（記載省略）

○以下、事務局による進行

3. 閉会（記録省略）